

MIRÓ MALLORCA FUNDACIÓ



Miró maiorca

- Esculturas i murals ceràmics de Joan Miró
- Esculturas y murales cerámicos de Joan Miró
- Joan Miró's sculptures and ceramic murals

Sede de la Fundació
Edificio Moneo
Colección permanente Joan Miró
Exposicions temporals

Sede de la Fundación
Edificio Moneo
Colección permanente Joan Miró
Exposiciones temporales

Main building
Moneo's building
Permanent collection Joan Miró
Temporary exhibitions



Jardí d'escultures
Jardín de esculturas
Sculptures garden



Espai educatiu
Espacio educativo
Educational unit

Entrada principal
Main entrance
Tickets



Taller Sert
Estudi de Joan Miró
Estudio de Joan Miró
Joan Miró's studio

Espai d'interpretació Miró-Sert
Espacio de interpretación Miró-Sert
Miró-Sert interpretation unit

Vostè està aquí
Usted está aquí
You are here

Cafeteria
Cafetería
Snack Bar

Entrada
Entrance



Parquing
Parking

C. Sarridakis



Son Boter
Tallers de Joan Miró
Talleres de Joan Miró
Miró's workshops

Taller de gravat
Taller de grabado
Engraving workshop

Estudi / Estudio / Studio
Grafiti

Taller de litografia
Taller de litografía
Lithography workshop

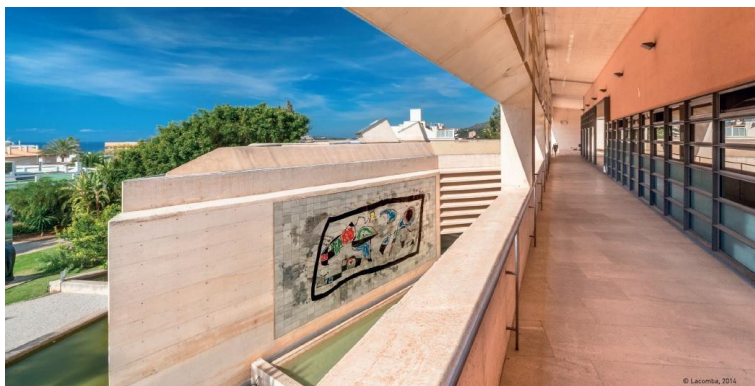
マヨルカ島でのミロ

ジョアン・ミロにとって、マヨルカ島は、平和で自由に創作に打ち込める素晴らしい場所であり、亡くなるまでその肥沃な大地で熱心に制作に打ち込みました。ジョアン・ミロとマヨルカ島との関係は生涯を通じてずっと保ち続けられました。**1893年4月20日**にバルセロナで生まれましたが、彼の母ドロース・フェラは、母方の祖父母同様、マヨルカで生まれています。このような家系的なつながりによって、**1900年以降**、子供の頃から毎年夏をこの地で過ごしました。大人になって、マヨルカ島出身者であり、**1929年**にミロと結婚したピラール・フンコーサと婚約することで、マヨルカとのつながりはさらに強まりました。その後、当時暮らしていたフランスにナチスドイツが攻めてきた**1940～42年**の間、マヨルカ島に疎開しています。

ミロは、**1956年**にマヨルカのソン・アブリネスに定住することを決めました。彼の人生初となるこの素晴らしいスタジオは、親友であり協力者であるカタルーニャ人建築家、ジョセップ・リュイス・セルトによって設計されています。この頃にはミロは既に有名な画家として活躍しており、国際的にも名声を得ていましたが、彼はアーティストとして、この大変恵まれた環境の中で静かに休むことなく働き続けることを求めました。その後**1959年**には、ミロは隣接している土地や建物であるソン・ボテルを買い求め、**1983年**にミロが亡くなるまでに制作された芸術作品全体の**3分の1**以上にあたる作品を生み出すこととなった様々なアトリエを有する施設を作り上げました。ここで**25年以上**も創作活動に没頭し、数多くの美を追求しました。そして、その闘志と研究意欲は今もなおこの場所に息づいています。

マヨルカ島ピラール&ジョアン・ミロ財団は、自分のアトリエをパルマ市に遺贈することを願ったジョアン・ミロと彼の妻であるピラール・フンコーサの意志によって誕生しました。**1981年**に財団となり、ミロが創作活動を行ったスタジオとアトリエ、さらに、いくつかの作品が、パルマ市の所有となりしたミロが**1983年**に亡くなってから数年後には、彼の妻ピラールの意見により、建築家ラファエル・モネオに依頼して、財団本部となる新しい建物を建築することが決まりました。これは**1992年**に完成しています。

2017年、マヨルカ島ピラール&ジョアン・ミロ財団は新たな時代に対応し、ミロ・マヨルカ財団に名称変更し新商標を発表：その豊かで、他には見られない芸術的・建築的資産と、周辺の自然環境によって特別な場所となっています。ここを訪れる人たちは、常設されているコレクションや、ミロが亡くなるまで創作活動を続けたアトリエによって醸し出されているクリエイティブな雰囲気を楽しめることができます。



財団設立より5年、さらにミロが亡くなってから3年経過した1986年に、彼の妻であるピラール・フンコーサは、当美術館の本部となるべき建物を建設する必要があることを提唱しました。この提案と共に、建築場所に最適なアトリエに隣接する土地を寄付することと、オークションから得られた利益で新しい建物の建築費用を支払えるよう、サザビーズのオークションにかけることを目的として、ジョアン・ミロの作品コレクションを寄付することを発表しました。

この建物は直線できており、センターの管理事務サービスを行っているスペースと、コレクションを展示するための特別なスペースがあります。このコレクションを展示するためのスペースは、ジョアン・ミロの作品を最大限に象徴している要素の1つである星にインスピレーションを受けているだけでなくモネオ自身の言葉によれば「まるで要塞」のような作りをしています。美術館を訪れる人々は、デッキが水の流れる板に変化し、池に変わって地平線や海に近づいていき、それが美しい光や色を作り出してどこが境界線なのか分からなくなっていく様子を見て驚かされます。この空間の内部は分割されているため、静かで落ち着いた雰囲気が作り上げられており、ミロの作品の精神と調和しています。

床面の高さから広がる大きな窓ガラスは、建築家が追究している内側と外側の2つの世界の間にある呼応を現実のものとしています。また、庭にはマヨルカ島に自生する植物が所狭しと並んで植えられ、緑豊かな空間を作り上げ、ジョアン・ミロの彫刻作品と調和しています。建物の周囲を囲む池は、この特別な空間の一部となって、この素晴らしい建築物に欠かせない要素となっています。



ジョアン・ミロのスタジオ オ：アトリエ・セルト

50年代の初め、ジョアン・ミロはどこか一カ所に定住して、自分の作品を生み出すためのアトリエを持つという夢を実現させるための場所を持つ必要があることを感じ始めました。

ジョアン・ミロは、そのスタジオを作るためのプロジェクトを友人で有名な建築家であり、近代建築活動の提唱者たちの代表者で、ハーバード大学院建築家の学科長でもあったジョセップ・リュイス・セルトに委託しました。

アトリエ・セルトの建築工事は1954～1957年に行われました。非常に成熟した建築物であり、セルトは建物を地理的な環境に完璧なまでに適合させ、景観を重視して、地中海地方特有の建築資材と技術を組み合わせています。

アトリエ・セルトの内部には、作成途中の数多くのキャンバスが置かれ、壁やショーケースにはミロが集めた興味深いオブジェが数多く展示されています。これらすべてが訪れる人々に特別な感覚を与えます。アトリエ・セルトは、ミロが人間的にも芸術的にもその集大成を迎えた創作活動の最後の時期を忠実に再現しています。





ソン・ボテル

典型的なマヨルカの田舎風家屋（*posseïció*：ポセシオと呼ばれる）であり、18世紀に建てられたこの建物は、その前年、ニューヨークで「グッゲンハイム・インターナショナル・アワード」を授与されたミロによって1959年に購入されています。ソン・ボテルはミロにとり、創作活動の幅を拡げ、大衆文化の起源やつながりを見出すことのできる環境が得られる場となりました。ソン・ボテルは、初めは彫刻用のアトリエとして使用されていましたが、その後、大きな作品を描くための2番目の絵画用アトリエとなり、さらにはミロが休息を得るための隠れ家的な場所にもなりました。

この家の壁には、ジョアン・ミロ自身による非常に特徴的なで描かれた「グラフィッティ」が残されていて、今もそれら鑑賞することができます。これらの多くは彫刻に関連したもので、ミロ独自の表現方法を独特な形で堪能することができます。







コレクション

ジョアン・ミロはマヨルカ島のアトリエで、休みなく創作活動に励みました。そのことは、今日財団が所有する絵画、デッサン、彫刻、公共芸術プロジェクト、グラフィック作品、陶芸、壁画、ガラス工芸、タペストリー、演劇用の装飾品や衣装といった芸術的資産の数と質において伺うことができます。さらに、ミロが収集し、彼独自の創作環境において重要な位置を占めた数多くのオブジェも含まれています。様々な種類からなる約5千作にも上るこれらのオブジェは、このアーティストが使用したテクニックや素材、制作方法の豊かさを示すだけでなく、実験に対する飽くなき欲求も示しています。

これらのコレクションの制作時期は、彼の成熟期でもある60～70年代を中心としていますが、80年代の作品もいくつか存在しています。この時期は、反抗心や決して妥協を許さない精神を特徴としており、このような精神は新たな創作的課題に立ち向かうための原動力となっています。

これらのコレクションの中で最も特別な作品に、ミロの作品として最も古い作品である1908年に描かれた油絵と、東洋の毛筆に影響を受けた非常にシンプルで滑らかな和紙に描かれた10メートルにおよぶデッサンがあります。

財団が所有するコレクションには、ミロの現代の作品や、財団のグラフィック作品用のアトリエで制作されたグラフィック作品が含まれています。

図書館

ジョアン・ミロによる現代アートや彫像、作品や文化に関する内容を専門に扱っています。現在は、研究論文や展示会のカタログ、ビデオやメディアによる資料、国内および海外の雑誌や、ミロ個人の蔵書の一部などを所蔵しています。

ジョアン・ミロのグラフィック作品用アトリエ

これらのアトリエは、ミロが若いアーティストや、近代アートの制作者たちに遺したものです。ミロにインスピレーションを与え続けた環境を維持したまま、ミロ自身がグラフィック作品の制作や著作活動を行うために使用したリトグラフや彫刻用アトリエを保存しています。現在これらの施設は、セリグラフィーや陶芸、写真やデジタル印刷などのその他の技術も使用できるように適合されています。毎年、特別制作や、シリーズ作品のトレーニングなどが開催されています。

教育施設

当財団では、独自の教育活動チームが、創作活動、体験型ツアー、特別プロジェクトなどを通じて、ご家族、学生、教員、被差別民、一般のご来館者など、ご来館いただく皆様に合わせて様々なサービスを提供しております。

ピラール・フンコーサ&サザビーズ賞および奨学金

設立者の意志を受け、奨学金は毎年、賞については2年ごとに募集を行っています。これらを通じて、現在研鑽を積んでいる新たな世代のアーティストたちの間に創作価値を促進し拡散するとともに、常に創作活動において革新や新たな道を模索することを推進しています。創造性、研究、実験、芸術活動の教育に対する最高の指標となっています。

ご利用いただける施設

ショップ カatalog、オブジェ、グラフィック作品など、ジョアン・ミロにまつわる様々な種類の商品をご提供しています。

カフェテリア 財団敷地内に併設されており、個人的なイベントも開催できる素晴らしいテラスで、マヨルカ島の特産品をご堪能ください。

駐車場 身体障害者用スペースもご用意しております。

貸出用スペース 当財団では、個人的なイベントや、製品発表、トレーニング、セミナー、会議などを開催できる様々なスペースをご提供しております。

館内のご案内 前もってご予約いただいた場合は、ご来館者のご希望に合わせ、お望みの言語で財団敷地内をご案内致します。

<https://www.miromallorca.com>